

経済・政治研究所長 殿

..... 自助・共助 研究班
主 幹 坂本 治也

研究班活動報告書

2021年度.....自助・共助.....研究班の研究活動結果を、次のとおり報告いたします。

研究テーマ	現代日本における自助・共助に関する人々の意識と行動を政治学の観点から総合的・実証的に研究
研究成果の概要及び活動報告	<p>学会・研究会参加、発表および講演</p> <p>講演「コロナ危機の中の政治参加のゆくえ」中央電気倶楽部午餐会、於：中央電気倶楽部、2021年4月23日（坂本研究員）</p> <p>学会発表「過去の社会運動に対する否定的評価は政治参加にどう影響するのか」日本 NPO 学会第23回研究大会、オンライン開催、2021年6月20日（坂本研究員）*同発表で、日本 NPO 学会賞・年次大会優秀発表賞を受賞</p> <p>研究発表「新自由主義は市民社会の活性化をもたらすのか—自己責任意識と市民的参加の実証分析」日本 NPO 学会ウェビナー企画「新自由主義と市民社会の関係を考える」、オンライン開催、2021年8月23日（坂本研究員）</p> <p>講演「愛国心と市民参加—愛国心の向上は活動的市民の増加につながるのか」関西大学経済・政治研究所第248回産業セミナー、於：関西大学千里山キャンパス、2021年10月6日（坂本研究員）</p> <p>研究会発表「Social Desirability Bias in the Preferences about the Youth Suffrage among Japanese Young Voters」the Japanese Society for Quantitative Political Science (JSQPS) 2022 Winter Meeting、オンライン開催、2022年1月9日（坂本研究員、秦研究員）</p> <p>講演「市民社会における NPO の役割と今後の役割」福岡県 NPO・ボランティアセンター研修会、オンライン開催、2022年1月27日（坂本研究員）</p> <p>学会発表「Support for Climate Aid to and Accepting Climate Refugees from Asia and Africa? A survey experiment in Japan.」Western Political Science Association 2021 Annual Conference、オンライン開催、2021年4月（宋研究員）</p> <p>研究会発表「Supporting Climate Adaptation Overseas by Providing Climate Aid or Accepting Climate Refugees: A Conjoint experiment in Japan.」Environmental Politics and Governance Conference、オンライン開催、2021年7月（宋研究員）</p> <p>研究会発表「Cooperation Spillover from Environment to High Politics? Paired Experiments in Japan and South Korea.」Environmental Politics and Governance Conference、オンライン開催、2021年7月（宋研究員）</p> <p>学会発表「Public Perception of Migrants: Impact of Multicultural Policy in Japan and Korea,」American Political Science Association、オンライン開催、2021年10月3日（宋研究員）</p> <p>講演「国家間の「助け合い」はいかに実現されるか」関西大学経済・政治研究所第248回産業セミナー、於：関西大学千里山キャンパス、2021年10月6日（宋研究員）</p> <p>学会発表「スキャンダルはスキャンダルで隠す? : サーベイ実験による投票後悔の検証」日本選挙学会、オンライン開催、2021年5月（秦研究員）</p> <p>学会発表「New Party Entry and Ethnic Outbidding in Japanese Local Governments,」International Political Science Association、オンライン開催、2021年7月（秦研究員）</p> <p>学会発表「Did Trump's Hardline Posture Reassure the Public in Japan?: Evidence from a Quasi-Natural Experiment,」16th International Conference of the European Association for Japanese Studies、オンライン開催、2021年8月（秦研究員）</p> <p>学会発表「人はなぜ陰謀論に惹かれるのか? : COVID-19 発生源に関するヴィネット実験による検証」日本政治学会、オンライン開催、2021年9月（秦研究員）</p> <p>学会発表「ワクチン確保をめぐる『闇の力』: 日本とイスラエル世論におけるサーベイ実験の比較」日本国際政治学会、オンライン開催、2021年10月（秦研究員）</p>

著書	
分担執筆・論文等	<p>「新自由主義は市民社会の活性化をもたらすのか—自己責任意識と市民的参加の実証分析」『選挙研究』37巻1号：5-17頁、2021年7月（坂本研究員）</p> <p>“Making the Veil of Ignorance Work: Evidence from Survey Experiments” (co-authored) <i>Oxford Studies in Experimental Philosophy</i> vol.4, pp.53-80, December 2021（坂本研究員）</p> <p>「第1章 2020年の寄付の動向」日本ファンドレイジング協会編『寄付白書2021』日本ファンドレイジング協会、19-54頁、2021年11月刊（坂本研究員）</p> <p>「愛国心と市民参加—愛国心の向上は活動的市民の増加につながるのか」関西大学経済・政治研究所自助・共助研究班『自助・共助・公助の政治学』関西大学経済・政治研究所、2022年3月刊行予定（坂本研究員）</p> <p>「昭和戦前期における河川愛護運動の展開」関西大学経済・政治研究所自助・共助研究班『自助・共助・公助の政治学』関西大学経済・政治研究所、2022年3月刊行予定（若月研究員）</p> <p>「公文書の電子化と日本政治史研究：政策決定の「経緯」が分かる文書の残され方を中心として」<i>Records & information management journal</i> 46巻、1-4頁、2021年4月（若月研究員）</p> <p>“Public Support for Climate Adaptation Aid and Migrants: A Conjoint Experiment in Japan,” (co-authored) <i>Environmental Research Letters</i> 16(12): 124073, December 2021（宋研究員）</p> <p>“Understanding Public Support for Domestic Contributions to Global Collective Goods: Results from a survey experiment on carbon taxation in Japan.” <i>Climatic Change</i> 166:51, July 2021（宋研究員）</p> <p>「国家間の「助け合い」はいかに実現されるか」関西大学経済・政治研究所自助・共助研究班『自助・共助・公助の政治学』関西大学経済・政治研究所、2022年3月刊行予定（宋研究員）</p> <p>「8章 政治学：3つのイズム (ism) と争点態度の比較研究」内田論・中藤哲也・大賀哲編『異分野融合研究のためのテキストマイニング：基礎と実践』ひつじ書房、139-162頁、2021年7月（秦研究員）</p> <p>「「正しい知識」は防波堤になるか？」『中央公論』2021年5月号：34-41頁（秦研究員）</p> <p>「右も左も「陰謀論」だらけ？：左派における陰謀論受容のメカニズム」『現代思想』2021年5月号、117-126頁（秦研究員）</p> <p>「世論調査は「民意」を調査できているのか？：コンジョイント実験による検証」『中央評論』316号、36-45頁（秦研究員）</p> <p>「なぜ、野党支持者は一枚岩になれないのか？：自助—公助意識から見る野党に対する感情の交差」関西大学経済・政治研究所自助・共助研究班『自助・共助・公助の政治学』関西大学経済・政治研究所、2022年3月刊行予定（秦研究員）</p> <p>「ふるさと納税の受け入れに関わる自治体の対応」関西大学経済・政治研究所自助・共助研究班『自助・共助・公助の政治学』関西大学経済・政治研究所、2022年3月刊行予定（梶原研究員）</p>
新聞・メディア掲載その他	<p>「愛国心が強いほど「政治参加する」のか？ 調査から見えた「意外な結果」」現代ビジネス、2021年11月20日、https://gendai.ismedia.jp/articles/-/89394（坂本研究員）</p> <p>神戸市内の宗教法人による社会貢献活動に関するアンケート調査、NPO法人しゃらくとの共同調査、2021年11月、https://123kobe.com/news/4592/（坂本研究員）</p> <p>「荻上チキ・Session（特集「衆議院解散、総選挙へ～民主主義、投票率、陰謀論を考える」）」TBSラジオゲスト、2021年10月14日（秦研究員）</p> <p>「アシタノカレッジ（特集「なぜ日本では政治の話をしらないのか」）」TBSラジオゲスト、2021年10月18日（秦研究員）</p> <p>「（耕論）維新、躍進のなぜ」『朝日新聞（2021年11月20日）』（秦研究員）</p>
調査等	

<p>活動内容の総括</p>	<p>本年度の研究班の主たる活動として、まず研究班第1期の研究成果の集大成である研究双書『自助・共助・公助の政治学』を執筆し、2021年3月に刊行予定であることが挙げられる。全研究員が執筆した5編のオリジナルな論文が収録されている。収録論文のうち、坂本治也「愛国心と市民参加—愛国心の向上は活動的市民の増加につながるのか」および宋ジェヒョン「国家間の「助け合い」はいかに実現されるか」については、関西大学経済・政治研究所第248回産業セミナーにて発表を行った。加えて、坂本論文の内容については、ウェブマガジン『現代ビジネス』の編集者に注目されるに至り、そのダイジェスト版が「愛国心が強いほど「政治参加する」のか？ 調査から見えた「意外な結果」という形で記事化された。同論文は、これまで未解明であった日本人の愛国心と市民参加の関係を明らかにするものであり、一定の学術的価値を生むものになった。</p> <p>また、坂本が『選挙研究』上で刊行した論文「新自由主義は市民社会の活性化をもたらすのか—自己責任意識と市民的参加の実証分析」は、125名が参加した日本NPO学会ウェビナー企画で取り上げられるなど、多くの注目を集める研究成果となった。</p> <p>さらに、坂本が日本NPO学会で報告した「過去の社会運動に対する否定的評価は政治参加にどう影響するのか」は日本NPO学会賞・年次大会優秀発表賞を受賞した。本研究班の研究活動が外部からも高く評価されていることの現れとなっている。</p> <p>最後に、2022年2月には約2500名のウェブモニターを用いた意識調査を実施した。同調査から、義務投票制に対する賛否、愛国心とナショナリズムの関係、「弱者の味方」イメージを有する政党の実態などの、新たな調査知見が得られた。</p>
<p>次年度に向けての計画・展望</p>	<p>2022年度は、大きく分けて2つの研究活動に従事する予定である。</p> <p>第1に、2022年2月に実施したウェブ意識調査のデータについて詳細な解析を行い、研究論文としてまとめていく作業である。これらは複数の査読論文として発表していく予定であり、既存研究では十分な検討がなされていなかったテーマに新たな知見を加えるオリジナルな論文に結実することが予想される。なお、従来と同様に、学会誌などの学術媒体に論文を発表することに加えて、新聞や雑誌などのマスメディア媒体を通じて、アカデミア外の実務者や一般市民に向けて、研究成果をわかりやすく解説するアウトリーチ活動も積極的に行っていく予定である。</p> <p>第2に、これまでの研究で十分解明できなかった点をフォローするための、新たなウェブ意識調査を実施することである。2022年10月頃の実施を予定している。中身としては、2022年2月実施の調査で先鞭をつけた義務投票制や愛国心・ナショナリズムについて、市民参加との関連から、さらに詳細な検討を行うためのデータセットの構築を目指すことになる。これまでの同様、調査内容の検討を研究会で入念に検討してから調査実施することを心がけたい。</p>